

PEGの観察ポイント

監修：ふきあげ内科胃腸科クリニック院長 蟹江治郎（かにえじろう）先生

PEGにトラブルがないか、頻回に観察しましょう。

様

PEGの種類：バルーン型チューブ・バルーン型ボタン・バンパー型チューブ・バンパー型ボタン

- 1 栄養剤が瘻孔周囲から漏れていませんか はい いいえ
- 2 皮膚が赤くなったり、ただれていませんか はい いいえ
- 3 ストッパーを締めつけすぎていませんか
(ストッパーと皮膚の間に指が1本入るぐらいが目安です) はい いいえ
- 4 栄養剤を注入後、嘔吐が目立ちませんか はい いいえ
- 5 栄養剤を注入後、下痢が目立ちませんか はい いいえ
- 6 チューブ内が栄養剤で汚れていませんか はい いいえ

「はい」の項目がある場合は、
本文「PEGの主な合併症（後期）と予防法」を
参考に管理の仕方を工夫しましょう。



チューブタイプカテーテルの酢水による管理方法

監修：ふきあげ内科胃腸科クリニック院長 蟹江治郎（かにえじろう）先生

栄養剤注入後は毎回、以下の作業を行きましょう。

胃の内容物のチューブへの逆流を防ぎ、チューブ内を清潔に保つことが期待できます。

1 シリンジに 10 倍に薄めた酢水を 5 cc 充填する



2 大キャップを確実に閉める



3 小注入口から酢水を注入する



4 全ての酢水を注入する



5 酢水注入後チューブをクランプする（曲げる）



6 クランプ（曲げ）を保持したままシリンジを外す



7 クランプ（曲げ）を保持したまま確実に小キャップを閉める



8 クランプ（曲げ）を解除する



※写真中の酢水は、目立たせるために着色水を使用しています。

実際の酢水の色ではありません。

※酢水に使う酢は食用で OK です。